

永代供養堂で新しい形の供養を

磐田市の医王寺様（真言宗智山派）では、永代供養堂の建築工事が行われています。一二月に地鎮祭、そして三月一日に上棟式を執り行いました。鎌倉時代の建築様式を応用した構造で、天井も構造の一部に組み込む造りになっています。また方形屋根のため隅木が四方に架かり、一体構造で地震にも強い建物になります。

昨年医王寺様のすぐ裏に東海道線の新駅が開業し、それに伴う土地区画整理事業が進み周辺は様変わりしました。

←上棟時には天井が出来上がっています。



→ご住職による法要には総代さんも参加いたしました。

次世代に受け継がれる書院へ

三月になって春らしい日が続き過ぎしやすい季節になり、津梁院様（曹洞宗・浜松市北区三ヶ日町）では書院修繕工事が始まりました。

既存の骨格を残し使い勝手がいいように改修し、同時に屋根替えの工事も行っています。工事は今年の一二月の完成を目指して安全第一で進めていきます。

→長い間かまどや囲炉裏を使っていたため防虫効果があり、柱や梁はしっかりとしていて充分使えます。

↓屋根も同時進行で瓦降ろしを行いました。今年の秋ごろには真新しい屋根になるのが楽しみです。

